

洋上風力発電事業について

～ 最新の情報を随時お知らせします～

問合せ

総合政策課企画政策係

(内線 1362)

第4回新潟県洋上風力発電導入研究会

10月9日

朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター（新潟市）

研究会は洋上風力発電の導入の可能性や課題を検討するために県が設置しているものです。今回は、一般社団法人日本風力発電協会による「洋上風力発電の現状と展望について」の講演とゾーニングの検討が行われました。

《主な構成メンバー》

行政（国、県、沿岸市町村）、大学、漁業等関係団体、電気事業者、海運事業者、金融機関 など

◆風力発電に係るゾーニングとは…

環境保全と風力発電の導入促進を両立するため、関係者間で協議しながら、環境保全、事業性、社会的調整に係る情報の重ね合わせを行い総合的に評価した上で、次の区域を設定し活用する取組

- ①法令等により立地困難または重大な環境影響が懸念される等により環境保全を優先することが考えられるエリア（保全エリア）
- ②立地に当たって調整が必要なエリア（調整エリア）
- ③環境・社会面から風力発電の導入を促進しうるエリア（促進エリア）

これにより、環境アセスメントの効率化・短縮化や、洋上風力発電の円滑な導入の促進に寄与することが期待されています。なお、決定後には公開されることになっています。

第3回新潟県洋上風力発電導入研究会・地域部会

10月16日 産業文化会館

事業想定区域（案）



地域部会は、洋上風力発電の候補海域として想定される胎内市・村上市沖についての課題等を検討するために県が設置しているものです。

今回は、県産業振興課から研究会におけるゾーニングの検討状況や、洋上風車を設置することにより漁業や景観にどのような影響があるかについての調査に関する報告が行われました。

また、今後この地域部会で検討する区域となる「事業想定区域（案）」が示されました。これは、ゾーニングによる保全エリアを除いた胎内市・村上市の沿岸域および沖合のうち、現時点において海で営む漁業者との調整が可能と考えられる、次の①と②を満たす区域を範囲とするものです。これにより、さらに具体的な議論がなされることが期待されています。

- ①離岸3海里（約5.6キロメートル）以内
- ②おおむね水深20メートル以深

《主な構成メンバー》

行政（市）、漁業者、商工・観光団体、区長、電気事業者、海運事業者 など



◆漁業に関する調査

洋上風車による集魚効果および回遊魚（主にサケ）への影響を調査するため、魚類の既往調査結果の収集と、その設置前後の年を対象に近隣の主要な河川における回遊性魚類の漁獲量等の整理を行うもの。

◆景観に関する調査

公開されている観光情報やヒアリング等により地域で大切にしている景観に関する情報を収集・整理した主要な眺望点からの主たる眺望方向や眺望範囲、景観資源の視認の程度等を確認するもの。

胎内市関係では、荒井浜森林公園、村松浜海水浴場、はまなすの丘展望台、白鳥山、鳥坂山を主要な眺望点として現地調査が行われています。

※事業想定区域（案）の破線部分については、現時点において風車を設置する具体的な計画はないが、調整や地盤調査の結果によっては風車の設置が可能と考えられる海域を表します。